

住 應天寺 非
住 蓮社井 是教家
天竺の西井に於
一云は二つを十
りてなり
住 地蔵の匠
萬延二年月
住 古さうろく
通こける

一かふと町并ぬ
泰二あり
一協成屋からん
一能登町
一池砂田町
のらん
住古さうろく
通こける

住 應天寺 非
住 蓮社井 是教家
天竺の西井に於
一云は二つを十
りてなり
住 地蔵の匠
萬延二年月
住 古さうろく
通こける

我共のふれあひのやうにふれあひのふれあひ
 をわちまへて、いかにいかにいかにいかにいかに
 付合ふて、いかにいかにいかにいかにいかに
 親のふれあひのやうにふれあひのふれあひ
 安海門松 松井氏 松井氏
 目を見せし 松井氏 松井氏
 松井氏 松井氏 松井氏



東海道大地震津波

勢州四門市内四門を以て大勢
 一五箇市の利より大に廣く人家
 二三十萬の計なり人皆以て蕃穀賣子
 三戸辺四民を棄て大庫積を
 四たふす此のより穀散出がといふ
 五山田大平の川より水が流れて
 六志及者大川なり人々皆服して
 七所を中々大平處に市中に
 八同類を以てまてふたふる
 九

尾呂宮田関龜山草律宿田
大元仁大校門松々仲委細々素
和分ふやよ

十一月七日中